

審判派遣 道外派遣参加報告書

大会名 第45回全国ミニバスケットボール大会	期間 2014年3月27日(木)～3月30日(日)
開催地 東京	会場 国立代々木競技場第一体育館・第二体育館
参加者 阿部 孔明	所属地区名 札幌
講師 中山 泰夫氏、平育雄氏、岩田千奈美氏、小坂井郁子氏	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年 3月28日(金) 第1研修ゲーム	
対戦カード(男子) 長崎市立大園小学校(長崎県) VS 大岩田男子ミニバスケットボール少年団(茨城県)	
副審 阿部 孔明 相手審判 加賀野 史明(愛知県)	
【ゲーム前のカンファレンス内容】	
以下の内容を確認	
<ul style="list-style-type: none"> ○今大会最初の研修ゲームであり、またお互いが全国ミニ初めての試合となるので、失敗はあるかもしれないが、お互いに協力していくこと。 ○エリア3は、パスやドライブに合わせて引き継ぎを行うこと。 ○長身の選手がいるチームなので、ゲームの中でチームやプレイヤーの特徴を把握しながら、お互いのコミュニケーションをとって対応していくこと。 	
【ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス】 主任 三木 大助(鹿児島県)	
<ul style="list-style-type: none"> ○脚を使った動きがとてもよく、トレイルに速く入り、プレイをリードから受ける動きは良かった。また、最初に起こるプレイのスペースを捉えていたのは評価できる。 ○選手がハーフライン辺りで倒れるケースが何度かあったが、互いの距離が離れすぎて、判定できない場面が何度か見られた。プレイに合わせて、リードへの入り方は工夫をしていくべき。 ○反対に、お互いに近づきすぎて、10人をボクシングインできない状況があった。これも、相手審判との協力に関わるが、リードとトレイルがお互いの動きを視野に入れて、状況に合わせた動きができるともっと良かった。 ○相手エリアのプレイの流れをよく見て把握すべき。ボール運びやドライブの場面での触れ合いはどちらに責任があるかを見極める必要があった。意図的に身体を寄せ合うプレイ(OF・DFともに)に対して、はっきりと的確に判断してあげてほしい。 	
【ゲーム後、講師(中山氏)からのアドバイス】	
<ul style="list-style-type: none"> ○二人ともに、審判として何を意識して審判をしていたのか。審判として気を付けなければならぬことや二人のコンビネーションに対しての意識を持っていたのか。二人とも一生懸命プレイを追っていたが、プレイを追うことに終始してしまった感じがする。 ○クォーターによりプレイが変わり、プレイの内容が変わるということを意識して判定すべき。 ○良い位置取りをすることは最終目的ではなく、良い判定につなげるための一つの手段である。そのためには、プレイの流れを理解・把握して予測を立てることも必要である。 	
【ゲーム感想】	
<ul style="list-style-type: none"> ○体格差があり、OFがDFに身体を寄せていくプレイの見極めが難しく、その迷いが1Qからの基準につながってしまった。迷いが起こる原因が、動きのためなのか、意識の違いなのかを今一度再確認していきたい。 ○プレイの最初のスペースを捉えてはいたが、次に起こるスペースも意識して見取れる位置取りの予測をさらに意識する必要性を感じた。 ○初めて組む審判員とのカンファレンスの大切さを強く感じた。起こりうるプレイの中身のほかに、自分の視野の当て方や動きについても、カンファレンス時に行うと良いことを感じる事ができた。 	
実践実技2 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年 3月29日(土)	
対戦カード(女子) 田布施ミニバスケットボール(山口県) VS 松本南部(長野県)	
主審 阿部 孔明 相手審判 田中(愛知県)	

【ゲーム前のカンファレンス内容】

以下の内容を確認

- エリア3に、ボールがドリブルで進んだ場合はトレイルが、パスで進んだ場合はリードが追ったり、受けたりすること。
- リードは、支柱より右に行くタイミングを早めにする。
- 飛び込みリバウンドは、トレイルが判定すること。

【ゲーム後、講師（主任）からのアドバイス】 主任 勝原 芳徳（山口県）

- 自分のエリアで起こったことに対して、良いスペースを捉えて吹いている姿がよかった。
- 相手審判のブラインドになっていたたり、遅れていたりするプレイに対して、相手審判を助ける場面が見られてよかった。
- しかし、相手審判を助けたつもりでも、任せるところは任せてもよかった。あえて吹かなくてもよいものもあった。

【ゲーム感想】

- 難しいケースもなく、1試合吹くことができた。しかし、ゲーム内で相手審判とコミュニケーションを取り、プレイの質や基準の話をうまくできず、判定がずれてしまうこともあった。
- プレイの次に起こるスペースを捉えるように意識できたが、判定につながらないプレイもあった。プレイを動きながら捉えることもあったので、より早い判断力も必要だと感じた。

実践実技3 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2014年 3月30日（日）

対戦カード（男子） 六ッ川ミニバスケットボールクラブ（神奈川県）VS 井ロミニバスケットボール同好会（長野県）

主審 阿部 孔明 相手審判 三木 大助（鹿児島県）

【ゲーム前のカンファレンス内容】

以下の内容を確認

- 長身のプレイヤーに対するDFの仕方、体の使い方を細かく見ていくこと。
- 次に起こるスペースまで捉えた動きやポジショニングをすること。
- リードで支柱より右へ行った時の、トレイルの視野の分担について。

【ゲーム後、講師（主任）からのアドバイス】 主任 星野 忠勝（委員会）

- お互いに、良い笛を入れることができていた。1, 2Qは、お互いの基準もしっかりとしていて、良い協力も見られた。
- 3, 4Qで負けているチームのDFの体の寄せ方や手の使い方については、もう少し整理した方が良かった。試合間でコミュニケーションをとれる場面が少なかったが、タイムアウトやクォーター間で取り上げて話題に出できれば、1試合通してよいジャッジにつながったのでは。

【ゲーム感想】

- 初日に主任をしていただいた方だったので、自分の動き方や課題もカンファレンス時に話せて、良い協力関係を保ってゲームを終えることができた。
- プレイの質が変わっていたのは感じていたが、DFのあたりに負けずにプレイを続けられるOFの力量などの影響を考え過ぎて笛を入れることができなかった。シンプルに判定することは、ゲームをまとめる上でも重要だと感じた。

【まとめ】

初めての全国で、緊張と不安でいっぱいだったが、自分の持ち味と力がどの程度通用するものなのかを試すよい機会と捉え大会に臨むことができた。

研修ゲームも含めて、ゲーム後の話し合いでは、ケースの話題よりも相手審判との『協力』についての話題がほとんどだった。そのため、カンファレンスの持ち方やゲーム内でのコミュニケーションなどがより重要であることを強く感じた。子どもたちに良いプレイ、良い試合をさせるためには、2人の協力は欠かせないが、そのプロセスをより高めていきたい。

研修ゲームや最終日までコートに立つことができ、大変貴重な経験をする事ができた。今回の経験を今後の活動に生かすとともに、全道の子供たち、審判員の仲間たちに伝えていきたい。

今回、このような機会を与えていただいた北海道協会をはじめ、北海道ミニバス連盟、地区協会の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。